

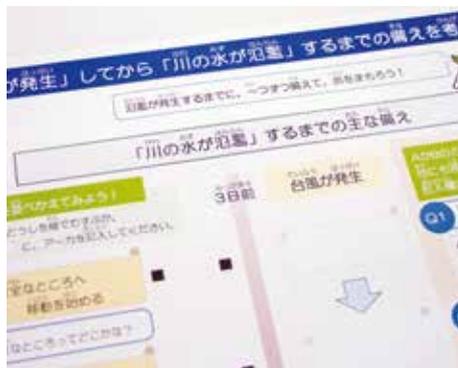


# 台風シーズン到来 事前の準備と行動で 逃げ遅れゼロへ

問合せ 防災対策課 ☎ 内線 337 FAX 21-7000

## \\マイ・タイムラインって?\\

風水害に対する事前の準備と行動を、あらかじめ記録する行動計画のことです。お住まいの地域の特性や家族構成によって、とるべき行動やタイミングが異なります。事前に「いつ」「誰が」「何をやるのか」を決めておくことで、災害時に落ち着いて避難行動をとることができます。



大雨に備えましょう。台風や大雨は、地震と違って予測ができ、事前の準備と行動で命を守ることが出来ます。風水害から命を守るために重要な行動計画「マイ・タイムライン」を作成して、台風や大雨に備えましょう。

## 近

年、全国各地で記録的な大雨や洪水の発生など、風水害による被害が頻発化しています。

## 大雨や洪水から街をまもる「ダム」の役割

ダムの主な機能として、水害を軽減する「洪水調節」、渇水時にも水を流すことで動植物などを保護する「河川環境の保全」、水道水など必要な水を安定供給する「水源の確保」が上げられ、市内に流れる久慈川の水系には竜神ダム、十王川の水系には十王ダムがその役割を担っています。河川流域の住民の皆さんが防災行動を考える上では、ダムの役割や機能を理解しておくことが重要です。

### ダムの放流量の調節機能

ダムには放流量を調節する機能が備わっていますが、その方法はダムによって異なります。竜神ダムは人為的にゲート进行操作して調節する仕組み、十王ダムは「ゲートレスダム」とも呼ばれ、小さい穴の開いた部分から、ダムに貯まった水が溢れ出る形で下流に水が流れ出ることで放流量を調整する仕組みとなっています。



# マイ・タイムライン作成のポイント

## 1 避難情報を事前に知っておく

災害の危険性を知らせる情報には、気象台の発表などをもとに市が発令する「避難情報」があり、5段階の警戒レベルで分けられます。**警戒レベル4（避難指示）**の発令までに**必ず安全な場所への避難が必要です。**

警戒レベル	市などが発令する避難情報	とるべき避難行動
5	緊急安全確保	命を守る行動を
4	避難指示	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	高齢者や障害者などは避難を開始
2	大雨・洪水等の注意情報（気象庁）	ハザードマップなどで避難行動の確認
1	早期注意情報（気象庁）	災害への心構えを高める

避難時に持ち出す食料や水、貴重品を入れておく「非常持出袋」の用意も重要です！



## 2 日立市総合防災マップを確認する

災害時に自宅や職場の周辺がどのくらい危険なのか、避難先までの道のりに危険はないかなど、市が公開している**ハザードマップ（右記QR）**などで**事前に確認**しましょう。



\*地区別防災マップは、令和5年3月20日号市報と同時に全戸配布しています。

## 3 最適な避難先を確認する

災害が発生したら**どこに避難するか、どのように連絡を取り合うかなど、普段から家族で話し合っておきましょう。**避難先は、市が開設する避難所（小学校や中学校）だけでなく、知人の家や自宅が安全であれば在宅避難も有効です。

## 4 避難行動開始のタイミングを共有する

いつ避難行動を開始するのか、避難のタイミングを事前に決めておきましょう。**家族構成や地域の特性を踏まえて設定**することが重要です。「警戒レベル4（避難指示）」までに必ず避難しましょう！

# マイ・タイムラインを作ってみよう

県では、スマートフォンなどから簡単にマイ・タイムラインを作成できる「WEB版マイ・タイムラインを作ろう」を公開しています。



作成のポイントを踏まえ、この機会に「わが家のマイ・タイムライン」を作成して、事前の準備と行動を整理しておきましょう。

マイ・タイムラインは家族で共有して、自宅のみんなが見える場所に貼っておきましょう。年に1度は内容を確認して、見直すことも大切です。



台風前の備えに

## 住宅の耐震・浸水対策費用を助成します

住宅の耐震対策や浸水対策を実施する方に、対策費用の一部を助成します。助成には要件があり、工事の契約前に申請が必要となります。

\*詳しくは右記QR（市HP）をご覧ください。



問合せ 住政策推進課

☎ 内線 247 FAX 21-7750

**サイレンが鳴ったらご注意ください**  
十王ダム下流には、河川の増水による危険を知らせるため7か所にサイレンが設置されています。想定を超える大雨の影響によりダムからの放流量が増加し、急激な水位の上昇が予測される場合には、サイレンが鳴ることがあります。サイレンが鳴ったら、必ず河川から離れるようにしましょう。

りダムの流入量が増えても、それぞれダムの放流量の調節機能により急激な河川の水位の上昇が軽減されています。ただし、大雨の際は、ダムからの放流だけでなく、下流域での降雨量により河川の水位が上昇することもあるため注意が必要です。